

「孫の日」を作って欲しい！

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

5月と言えば子供の日。この祭日がいつから出来たものなのかは知りませんが、戦前から鯉のぼりを上げる習慣はありました。江戸時代から鯉のぼりを上げる習慣はあったのでしょうか？何かにつけて宴席を設けたい国民なので、庄屋やお金持ちの商人は庭に鯉のぼりを上げて近所の人、取引先を呼んで御馳走や酒をふるまい、どんちゃん騒ぎをしていたのではと思いますが。

お正月、誕生日、クリスマスと並んで、子供にとってはプレゼントをもらえるチャンスです。でも住宅ローンや教育費などの出費で、パパやママにはゆとりがない……そんな時にシャシャリ出て来るのがオジイちゃん、オバアちゃん。かわいい孫のためならと奮発してプレゼントを買います。もっとも、最近の子供は品物よりも現金の方が良いなどと言いますが。

親に変わって孫にプレゼントするのなら、子供の日ではなく「孫の日」を作って欲しい。5月の子供の日、12月のクリスマスの間、8月に孫の日を制定すれば、お盆休み、夏休みに遊びに来た孫にプレゼントできます。それを目当てに実家に来てくれる子供家族も増えるかもしれません。旅行する家族が増えれば、経済の活性化にもつながります。お土産は必ず買うでしょうし、帰りには手土産を持たせるでしょう。消費は確実に増えます。

などととりとめのない事を「孫の手」で背中をかきながら考えたりするのですが、物価高の中で財布の紐をきつく縛った消費者にお金を使ってもらうには、あの手、この手で対策を打たなくてはなりません。

子供手当を拡充しても食費などに消えてしまいそうです。国は給食費の無料化などを考えているようですが、教科書や給食費を国が負担することは直接的な子供支援になります。3月には子ども特別手当を5万円程度給付して、新入学の子供のランドセル代や塾の入学費用に充ててもらえるのも良いかもしれません。

孫の日から話題がそれましたが、少子高齢化でお年寄りが増え続けている昨今、「孫の日を作って欲しい！」という署名活動を行えば、かなりの賛同が得られるのではないかと思います。もっとも、かわいいのは10歳くらいまでで、ジイジ、バアバの出番はなくなりそうですから、そんな祝日はいらぬという意見も多そうですが。